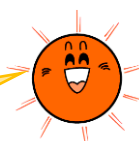


魅力ある学習課題の設定

教師の悩み 子供たちの学びをもっと主体的なものにしたい……

子供の「問い」や「思い・願い」を引き出し、課題意識をもたせましょう！



1 学習課題設定のポイント

子供が『自分ごと』として捉えることができる課題を！

そのためには



- ◎ 子供自身が『自問自答』できる課題
→ 「どうしてだろう?」「なんでだろう?」と自分の中で問うことができる!
- ◎ 子供にとって『気になる』課題
→ 「どうなっているの?」「解決したい!」と自然に思える!
- ◎ 子供が『興味・関心』を高める課題
→ 「おもしろそう!」「やってみたい!」と惹き付けられる!

教師の『仕掛け』が重要!

- ◎ 子供の「問い」や「思い・願い」を『引き出す』
 - 子供の発言やつぶやきをつないで焦点化するために、発問を工夫しましょう。
 - 「分からないこと」や「うまくいかないこと」など、つまづきを子供たち同士で共有し、「解決したい!」という思いを高めましょう。
 発問の例) 「みんなの疑問をまとめるとどうなりますか?」
「△△さんの思いを整理して、みんなの課題にしましょう。」
- ◎ 子供に「疑問」「ずれ」「葛藤」等を『生じさせる』
 - 子供たちが、これまでの知識や経験等に対して疑問をもったり、ずれに気付いたりして、「あれ?」と思うような問題を提示しましょう。
 - 子供たちが、自分の中で葛藤を感じたり、自分と友達との感じ方や考え方の間にずれを生じさせたりするようなコーディネートをしましょう。
- ◎ 子供の「知的好奇心」等を『くすぐる』
 - 複数の知識を活用する状況をつくり出せるように工夫しましょう。
 課題の例) 「どのようにして~のだろう?」
「○○なのに、どうして~のだろう?」

子供たちに『授業のゴール』を意識させると、一人一人の学びがさらに充実するね。



学習課題の条件

- 学習指導要領に示されている内容や単元の目標と対応している。
- 子供の実態に即している。
- 子供にとって身近で分かりやすい表現になっている。
- 学習への興味・関心を高めることができる。
- 適度な難易度で、解決への見通しをもたせることができる。
- 多様な捉え方や解決などを引き出すことができる。
- 子供にとって追究・解決する価値がある。

2 「問い」や「思い・願い」を引き出すための教材との出合わせ方(例)

- 具体物を提示します。(一人一台端末やデジタル教材等を生かす)
→ 資料の段階的な提示や複数の資料の比較・対比などで子供の興味・関心を高めましょう。
- 実演を取り入れます。
→ 「驚き、疑問、ずれ」などを生じさせる実演を行いましょう。
- 既習事項を振り返ります。
→ 前時までのノートや既習内容をまとめた掲示物を活用し「疑問、ずれ、葛藤」などを引き出しましょう。
→ 前時の内容や学び方を振り返る中で、思いや願いを引き出し、つまづきを子供たち同士で共有しましょう。そのためには、前時の振り返りの内容や視点を焦点化させ、充実させていくこともポイントになります。